

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による
農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道美幌町ほか

活動団体名：(株)大雪を囲む会

中間支援主体名：(株)地域価値協創システム

活動団体と地域の紹介

活動団体の紹介

◎活動目的

本社を美幌町として富良野、小清水等の北海道大雪山を囲む自治体にある有機農業生産者が、安全でおいしい農作物を消費者の皆様を提供することにより、生産者と消費者の相互理解を深めるとともに、環境にやさしい農業の推進を目指している。

◎活動エリア

北海道網走郡美幌町を中心に大雪山を囲む上富良野町、小清水町等

◎特徴

有機農産物の生産、販売に共同で取り組み、有機農産物を社会にもっと広める地域活動や、目指す農業スタイルが、自然にやさしい環境保全型農業であることから、地域の環境・経済・社会の課題解決及びローカルSDGs実現に貢献すべく活動を開始している。

地域の紹介

北海道オホーツク地域は農林水産業が主力産業であり、地域経済はそこに大きく依存している。人口減少、高齢化の進捗に伴い、地域経済が停滞、縮小していく中、今後も農林水産業をしっかりと維持していくことは地域の大きな課題である。地域の1次産業では経営の大規模化が進み、現状、経営は比較的安定しているが、品質基準に合わず出荷できない生産物も多く発生しており、その処理方法もまだリサイクル化が確立されておらず、経済的なロスとなっている。今後ネイチャーポジティブ経済への移行が進むと予測される状況から、それに対応した課題策が求められている。

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

“ローカルSDGsを実現した地域社会”

人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

(株)大雪を囲む会は法人化以前から美幌町内で長年農業を営んでおり、しっかりとした活動基盤を有しており、日常の活動において、地元自治体、各種行政機関、金融機関、商工団体等との接点も多く、地元NPO法人とも交流があり、さまざまなネットワークが利用できる状況にある。このメンバーを中心にプラットフォームを形成し、有機農業のメリットを伝える。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

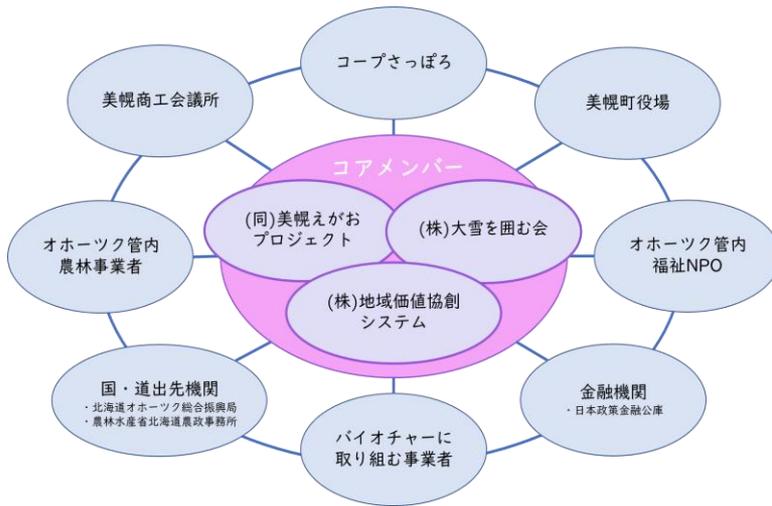
1. バイオ炭の製造・販売
 - ・農地施用によるJ-クレジット活用
 - ・燃料や農業、工業用資材の開発・販売
2. 地域循環共生圏づくり学習・観光事業
 - ・地元の学校と民間企業等の協働による探究学習の構築
 - ・教育旅行やサステナブルツアー商品造成及び提供

地域の現状

地域の基幹産業である農業において大規模化が進み、経営が安定した生産者は存在するものの、農地集約の背景には、人口減少や高齢化による後継者不足による廃業、離農がある。また規格に合わず、出荷されない生産物も多く発生しており、経済や環境におけるロスとなっている実態がある。さらに近年の異常気象で水害も多発し、「みどりの食料システム戦略」等においても地域温暖化防止に向けた緩和策、適応策が強く求められており、加えて化学肥料、農薬等の河川、海洋への流出も懸念されている。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



(株)大雪を囲む会と連携した社会福祉NPOや行政機関、企業等が核となり、有機農業を環境保全ビジネスとして確立し、次世代のブランド力のある事業として、担い手の育成を進めながら、育てていくプラットフォームを目指しています。

今後は下記のメンバーを重点的に加えて、プラットホーム形成を進めて行きたいと考えている。

- ・教育関係者（地元高校・大学）
SDGsを中心に環境学習を通して、地域の未来をともに考える
- ・環境保全農業に取り組む事業者
バイオチャー活用を中心とする農業分野の環境事業に取り組む事業者ネットワーク形成

想定している資源（モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ◎人的資源：環境保全農業に関心を持つ農業者、環境に配慮した商品購入希望者・企業
- ◎物的資源：豊富なバイオマス資源
- ◎情報資源：SDGs達成に向けた情報、ネイチャーポジティブ経済に関する情報

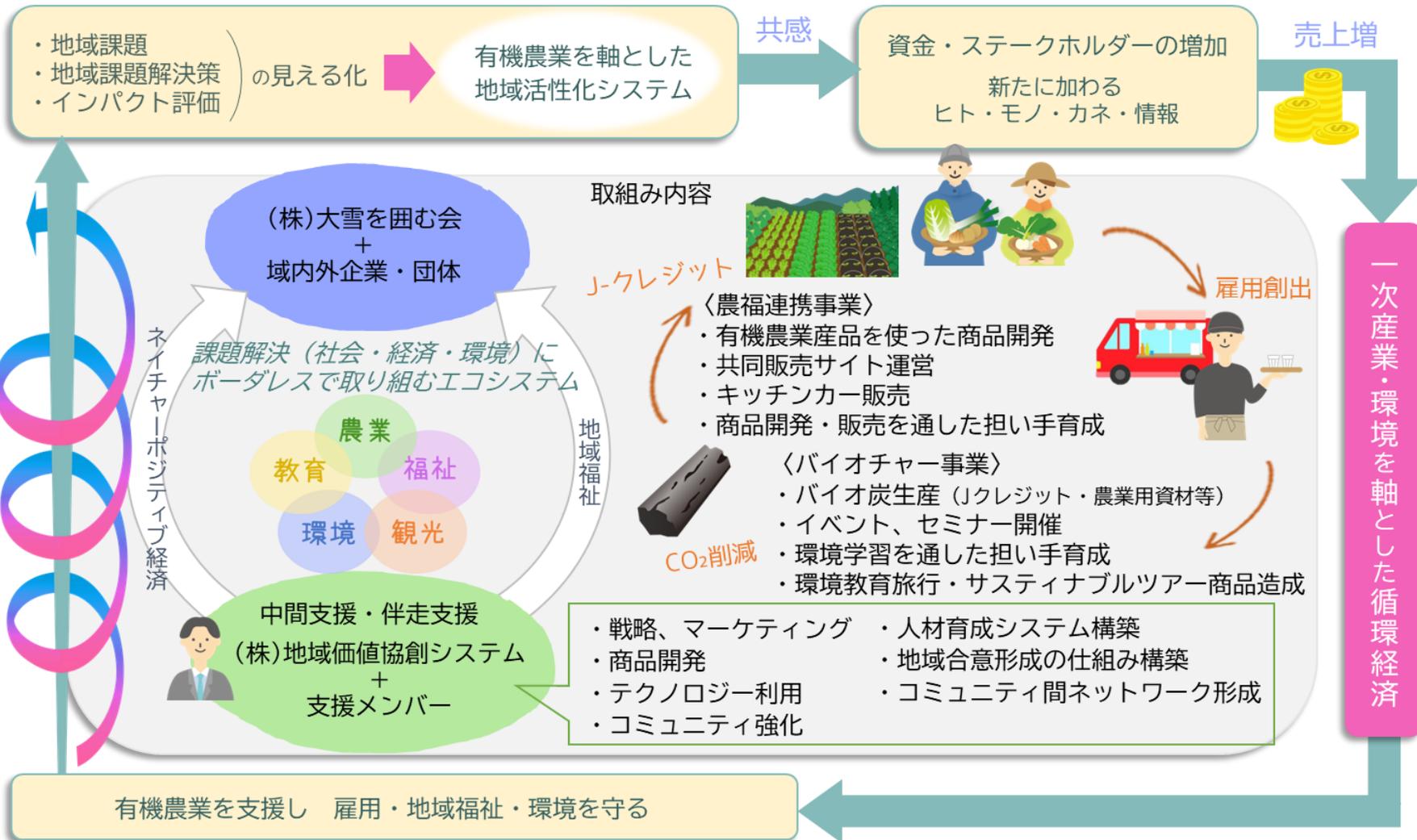
ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

〈環境にやさしい農業を目指した地域循環共生圏づくり〉

地域のビジョン

ローカルSDGsを実現した地域社会



3か年状態目標

2024年度末の状態目標

- 美幌町周辺において、有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進システム構築の目途が立ち、プラットフォーム構築の基盤が整う。
- 大雪を囲む会メンバーの他地域メンバーへの事業推進の基礎が固まり、2025年度に向けたステークホルダー確保にも目途が立つ。

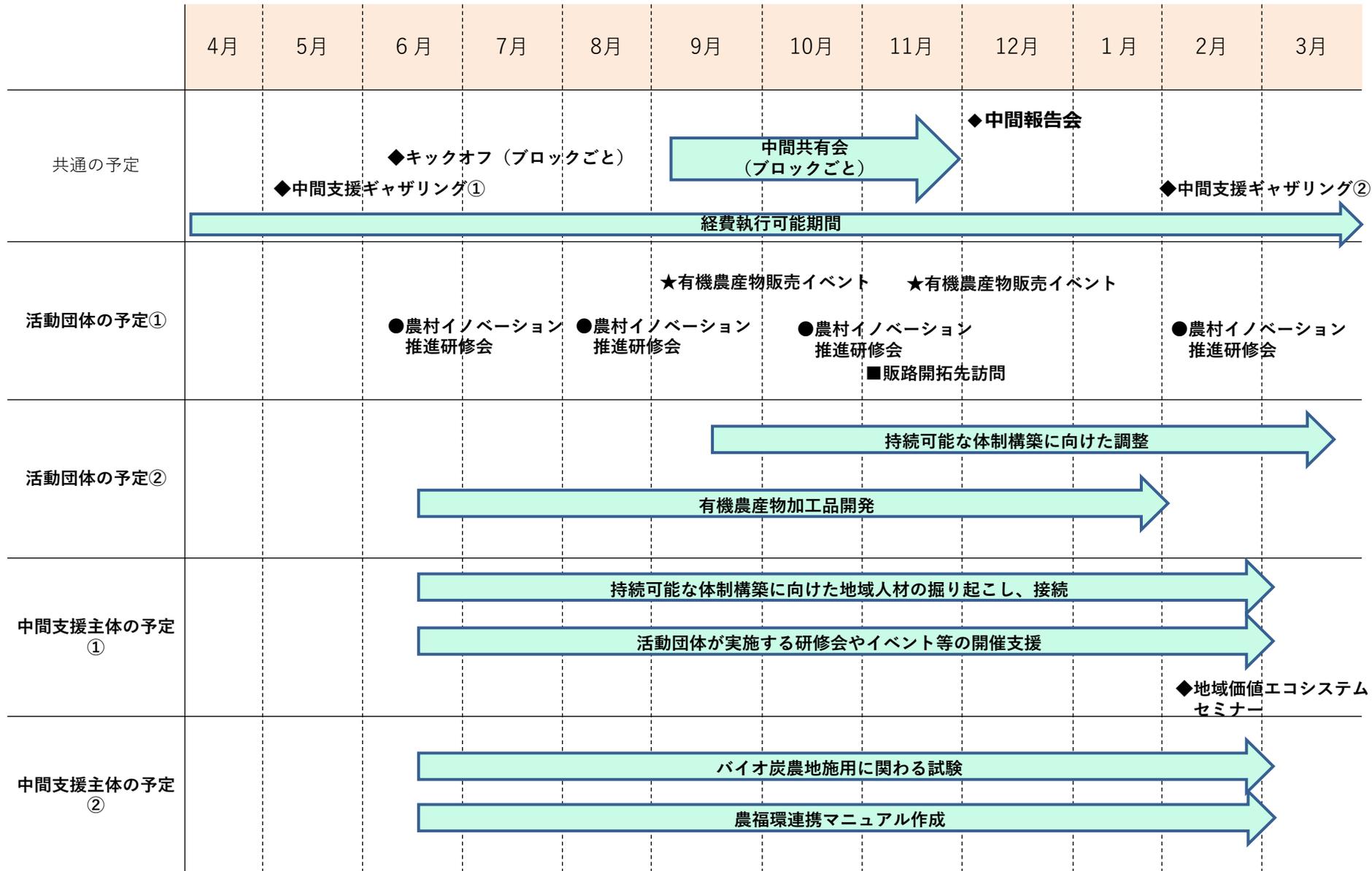
2025年度末の状態目標

- 美幌町周辺において、新たに有機農業に取り組もうとする農業者が現れ、ゼロカーボンファーマーミング推進に地域で取り組もうとする動きになり、農業を軸とする地域循環共生圏の姿が見えるかしてくる。
- 大雪を囲む会メンバーの他地域でも、有機農業への参入意欲を持つ農業者が現れ、美幌地域でのノウハウを活かした、横展開の可能性が高まる。

2026年度末の状態目標

- 美幌町周辺において、有機農業を軸とした地域循環共生圏プラットフォームが構築され、有機農業を支える支援ネットワーク形成も進み、福祉事業者も有機農業者との連携により、新たな事業の柱を得て、持続可能性が高まる。
- 大雪を囲む会メンバーの他地域でも、美幌地域と同様のプラットフォーム構築の目途が立ち、さらに周辺地域へも拡大の動きが見えてくる。

活動計画



中間支援主体より

中間支援主体の紹介

◎活動目的

北海道オホーツク地域の社会福祉NPO法人が出資して設立した法人である。地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成し、持続可能な地域づくりを目指している。

◎活動エリア

北海道網走郡美幌町を中心に周辺自治体

◎特徴

営利、非営利の境界を従来の基準で考えるのではなく、地域維持の観点から新たな枠組みを創造し、次世代型事業モデルを連鎖的に生み出すプラットフォーム整備をおこない、民間主導で広域で活動し、生産性の高いローカルSDGs事業を推進している。

活動団体の取り組みへのコメント、中間支援の方針・計画

○支援方針

北海道オホーツク管内の有機農業の拡大、推進の中心的役割を担えるよう、NPO団体等との協働推進や有機農業の魅力度や必要性を高める活動を支援し、他地域への横展開を推進する。

○支援計画

- ①有機農業への関心度向上を目指したセミナー開催や広報活動の充実
- ②他地域におけるステークホルダーの掘り起こし等による多様なつながり形成推進
- ③プラットフォーム構築に向けた課題の見える化とプロセス整理
- ④公的機関の支援制度（補助金、融資等）の情報収集、紹介